

出張まちづくり懇談会

第四弾

多古町異業種交流青年会「火曜会」との懇談会を開催

各種団体に町長が出向き、町民の皆さんと直接語り合う「出張まちづくり懇談会」。その第四弾として11月6日、多古町異業種交流青年会「火曜会」の皆さん18人との懇談会が、コミュニティプラザ会議室を会場に開催されました。提案されたテーマなどに基つき、活発な質疑応答や意見交換が行われました。主な内容をお知らせします。

多古中央病院について

質問◆多古中央病院は、医師不足などの影響から患者数が減少し、厳しい経営が続いていると聞いています。高齢化が進む中、安定した病院の経営が必要不可欠と考えますが、病院の現状と今後の見通しは？

町長・病院事務長●全国的な広がりをもてる医師不足の影響もあって、多古中央病院の経営は大変厳しい状況となっております。町では毎年、一般会計から病院会計への繰り出しを行っており、その額は、ここ数年2億6千万円程度となっております。

現在の診療体制としては、県など関係機関への強い要請の結果、今年4月から内科医が1人派遣されて3人となり、10月からは皮膚科も開設することができましたが、一方で外



科医が1人退職してしまうなど、根本的な医師不足の解消には至っておりません。また、入院および外来の患者数についても、内科医の退職に伴って平



成18年度から新規患者の受け入れを抑制したこともあり、5年前と比較して大幅に減少しています。このような状況を打開するための一つの手段として、役員内部に副町長をトップとする「国保多古中央病院運営検討会議」を設置し、将来の病院のあり方や今後の方向性について協議・検討を行うことになりました。今後、町民の皆さんの要望にも十分配慮しながら、近隣市町の医療機関や町内の開業医の皆さんとの連携をこれまで以上に強化するなどし、町民の皆さんが安心して暮らすこと

ができるよう、引き続き病院の経営改善と診療体制の充実に努めていきたいと思えます。

多古台開発について

質問◆多古台の開発は、町の将来にも大きな影響をもたらすものと思われる。多古町ならではの特色を打ち出すなど、より魅力あるものにする必要があると考えますが、現時点での計画と今後の方針は？

町長・地域振興課長●多古台の開発計画は、全体で約29ヘクタールの計画となっており、現在、土地の地籍更正

等の作業を進めているところです。

また、これと並行して、多古第一小学校から国道296号までの都市計画道路に係る一部擁壁の設置工事と道路設計にも着手しており、国から受けられる補助金の額にもよりますが、おおむね来年度中には道路工事を完了させる予定です。

全体の土地利用としては、道路南側の区域に、幼稚園と保育所の一元化(幼保一元化)に対応可能な施設を中心とした公共施設を整備し、それ以外は民間による住宅開発を考えています。

住宅開発については、すでに数社から申し出があり、各社それぞれが特色ある計画を提案してきています。多古町にふさわしく、より実現性や信頼性の高い計画はどのようなものなのか、慎重に精査・検討していきたいと思えます。

また、多古台の開発に合わせて、国道296号の4車線化やパーク・アンド・バスライド(駐車場併設バスターミナル)の誘致など、交通網の整備にも取り組む必要がありますので、今後、関係機関に対する働きかけを積極的に行っていきたいと考えています。

少子化の現状と小学校の統廃合について

質問◆少子化に伴い、本町の小学校においても年々児童数が減少しています。将来的には小学校の統廃合も必要になると思われるますが、現在の児童数と今後の見通しは？

町長・教育課長●本町における小学生の数は年々減少しており、今年5月時点で合計840人となっております。また、同じく今年5月時点での0歳児から5歳児までの数は、合計

で562人となっておりますので、このままの状況で推移すると、現在の0歳児が小学生となる7年後には、全体の児童数が現在の7割以下にまで減少してしまう見込みです。当面は、幼保一元化など子育て環境の拡充に全力で取り組みたいと考えていますが、将来的には小学校の統廃合についても検討が必要になると思われまますので、今後、町民の皆さんへの情報提供を図りながら、地域住民の皆さんの意向にも十分配慮しつつ、慎重に議論していきたいと考えています。



～町長と語り合いませんか～

『出張まちづくり懇談会』

昨年度の「地域懇談会」に続いて今年度は、要請をいただいた各種団体に町長が出向き、町民の皆さんと直接語り合う『出張まちづくり懇談会』を実施します。各区・組合など、おおむね20人以上の団体でお申し込みください。

お問い合わせ●総務課庶務係 ☎76-2611